



# FACE DUO



## 秦野厚生病院 認知症疾患医療センター

### 認知症疾患 医療センターの 役割

- 診断・治療の早期開始
- 介護サービスの利用
- 社会や地域との繋がり
- 認知症の方の不安軽減

### 認知症に関わる 課題

- 診断・治療開始の遅れ
- 行動心理症状への不適切な対応
- 在宅ケアを行う上での様々な課題の残存

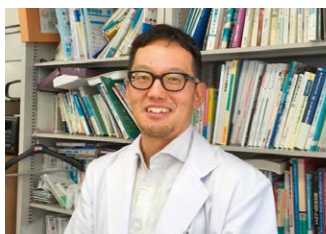
### 期待される事

- 地域との交流・関係が密になること
- 地域で抱えている問題や病院での課題をお互いに共有すること
- 「医療・地域・行政」3つのバランスの良い位置づけのための狭間の解消



## FACE DUO導入のきっかけ 期待 = スタッフ間の連携強化

センターの立ち上げにあたり、外部の方々にも関心を持っていただける取り組みを模索していました。その中で、地域包括支援センターと連携し、初期集中事業研修に参加しているケアマネジャーに対しても FACE DUOの活用を提案・相談したところ、大きな反響があり、その場で拍手が起こるほどでした。これは正直、予想外の反応でしたが、それだけ現場の介護における課題に対し、FACE DUOへの期待が高いことの表れだと感じています。FACE DUOは、研修会、家族会、デイケアなど、さまざまな場面で活用の幅が広がることを期待しています。認知症の方の気持ちに寄り添った行動を理解できるツールであるため、実践に結びつけて活用できれば非常に有意義だと考えています。導入によりスタッフ間の連携も強化されるきっかけにもなっていると思います。



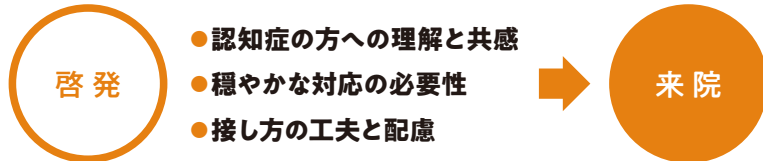
病院長 坂井 喜郎 先生



地域包括支援センターとの初期集中支援研修

## イベントでのFACEDUO活用 イベント参加者増加 → 啓発 → 来院

第23回秦野市保健福祉センターフェスティバルが秦野市保健福祉センターにて開催されました。保健と福祉への理解と関心を深めるとともに、認知症に関する普及啓発を進め、市民の参加を促すことを目的としています。会場には多数のブース展示が設けられましたが、その中でもFACEDUOを用いた体験ブースは特に注目を集めました。その後、イベントがきっかけで秦野厚生病院認知症疾患医療センターへ来院された方もいらっしゃいました。



## もの忘れ外来でのFACEDUO活用 アセスメントシートの試み

- 同居中の息子さん御夫婦 ●別居中の息子さん

「VRの体験によりその場にいる感じがして集中して見る事ができた」

「認知症の方の気持ちや接し方の具体例をもっと学びたい」

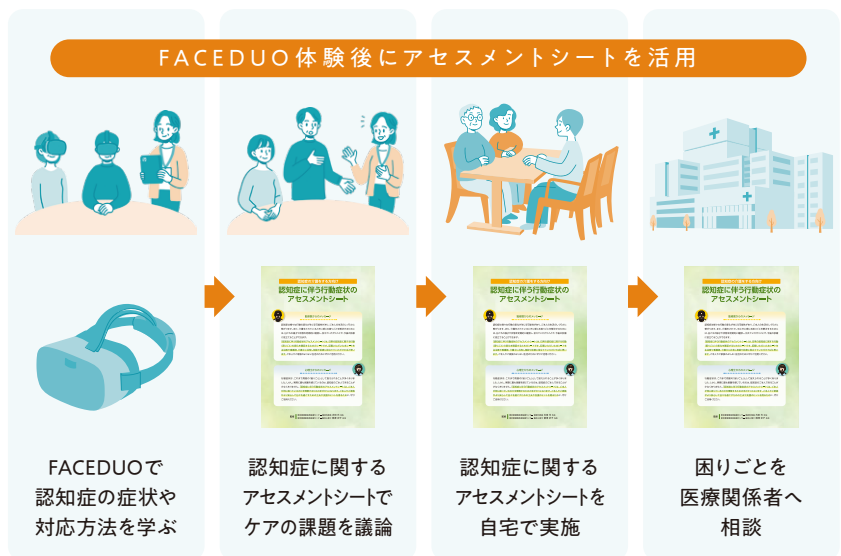
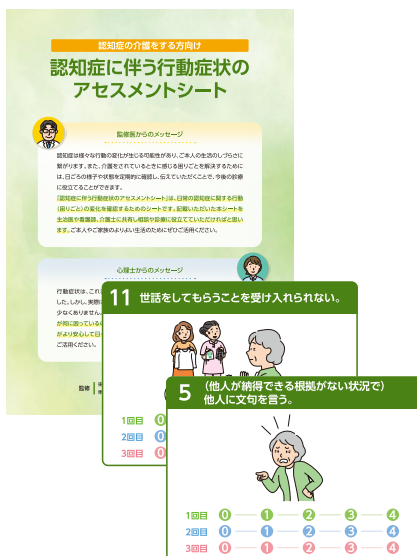
「自分事に置き換えて考える事ができた」



アセスメントシートを用い、困りごとを軽減していく取り組みへ

## 認知症に伴う行動症状のアセスメントシート

認知症に伴う行動症状のアセスメントシートは、介護者が記入できる認知症の「困りごと（行動症状）」を数値化し、医師・看護師・介護職との情報共有を容易にするためのツールです。厚生労働省の資料でも、認知症ケアの評価項目として採用されているスケールであり、行動症状の変化を簡単に把握できる点が特徴です。これにより、行動症状の有無や程度、経時的な変化を確認しやすく、介護負担の軽減にも役立つとされています。今後は、FACEDUO体験の前後でアセスメントシートを継続して実施し、行動症状の改善や負担軽減につなげていく予定です。



詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年3月作成  
FD2603006